

二〇一六年一月二日

金の砂まき散らすごと夜のどんど
婿の膝崩しはじめし屠蘇の酔
緋毛氈敷きて戎の猿廻し

さつき
なつき
さつき

二〇一六年一月二日

老禰宜の妙なる笛や里神楽
大寒と言へど朝市賑はひぬ
神楽舞ふ湯立の巫女へ風花す
炊きたての麦飯に割る寒卵

宏 虎
よし女
菜 々
三 刀

二〇一六年一月二〇日

寒行の読経漏れ来る杉木立
堆く蛸壺晒す寒日和
寒波など何するものと吟行す
風花やひしめきあへる船溜り
傘持たぬ下校の子等に風花す

宏 虎
三 刀
明日香
有 香
こすもす

二〇一六年一月一九日

春兆す修道院の庭の木々
産土の軒高々と年木積む
着ぶくれて口ボットのごと歩きけり
水墨の山河となりし雪の朝
産土へ詣でがてらの探梅行

せいじ
菜 々
智恵子
三 刀
はく子

二〇一六年一月八日

蟬梅をこぼさぬように鉄入れ
初観音ご詠歌衆の足袋白し

あさこ
なつき

二〇一六年一月七日

一つ星抱きてヒ首の月凍つる
射初めは成人式の若者ら
豪快に湯をあふれしむ初湯殿

せいじ
はく子
泰 山

二〇一六年一月六日

食べごろと湯豆腐躍りはじめけり
荒波の海に向ひて出初式
新年会ビンゴゲームで盛り上がる
強霜に電車のきしむ線路かな
中空に遊泳中のどんど屑

よう子
さつき
満 天
とろうち
さつき

毎日句会みのる選・二〇一六年一月二四日